

活動報告

介護環境改善研究事業報告

—平成 28 年度長野県大学・地域連携事業補助金採択事業—

齋藤和幸（佐久大学信州短期大学部）

The Report of care environmental improvement research project, 2016
—Cooperation project with the University and the local community
by the subsidy of Nagano Prefecture—

Kazuyuki Saito (Department of Shinshu Junior College at Saku University)

要旨: 少子高齢社会において、高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域づくりの実現や、地域に根ざした利用者本位の介護の提供が重要な課題となっている。こうした課題の解決に向けて、関係機関は介護・福祉の魅力を共有し、夢と希望を持って介護に臨むことができる環境づくりを目指していかなければならない。平成 24 年度から佐久大学信州短期大学部は、保健・医療・福祉の先進地である佐久地域において、長野県厚生連、ジェイエー長野会、佐久市及び佐久商工会議所をはじめとする関係機関と共に、介護する人とされる人のどちらにもやさしい介護の探求と、希望を抱いた後継者の育成を目的に、介護環境改善研究事業に取り組み始めた。この事業は、平成 26 年度から「長野県大学・地域連携事業補助金事業」に採択され、研究会のみならず様々な事業を公開し、関係機関、介護に携わる人、一般市民、及びこれから介護・福祉に従事しようとする人と共に、様々な情報を共有し課題解決に向けて取り組むなど一定の成果を上げてきた。

本稿では、前回平成 26 年・27 年の事業の概要と成果、今後の課題を報告した内容を踏まえて、事業の目的をより多くの機関や人々に認知いただき、より多くの方に参画いただくために取り組んだ、平成 28 年度介護環境改善研究事業について報告する。

I. はじめに

佐久大学信州短期大学部では平成 24 年度から佐久市や JA 長野厚生連及びジェイエー長野会を始めとする地域の行政機関・団体と連携して、高齢者や障がい者とその家族が安心して生活できる環境を整えるために、介護する人とされる人のどちらにも優しい介護を探求することを目的に「介護環境改善研究事業」を行っている。この事業は、介護職者や介護に携わる人の介護技術支援や生活支援技術の改善・向上につなげることと、高度な知識と技術をもった介護職者を輩出する目的をもって行っている。

この事業は平成 26 年度に長野県「大学・地域連携事業補助金事業」に採択され、平成 28 年度まで 3 年間にわたる継続事業として介護環境の改善に取り組んできた。今回はその最終年度の事業として、これまで共同で開催してきた各機関に加え、特に佐久圏域介護保険事業者を

始めとする地域の医療・福祉関連機関と連携を図り、介護環境改善と高度な技術でやさしい介護の実践及び情報発信地を目指して、介護環境改善研究事業を実施した。

平成 28 年度は、前年までの参加者による評価と本学を始めとする主催者側の評価・改善を踏まえ、事業の目的をより多くの方に認知いただき、より多くの参画を求めて事業を計画した。これまでに県の補助金を得て購入した移動リフトや 6 輪車椅子を利用した介護支援技術指導、前年度までに参加した方々の要望を基にした研究会と講演会を継続して開催し、また新たに一般市民、介護職者や介護職を目指す方に本学の施設・設備を多く解放し、本学の物的資源、人的資源により介護環境改善に資する事業を実施した。

以下に本事業の目的・概要・効果について報告し、今後も継続事業として実施していくにあたり、課題解決及び改善への方策へとつなげていく。

II. 介護改善研究事業

1. 事業の目的

少子高齢社会において、高齢者・障がい者が安心して暮らせる地域づくりの実現、及び地域に根ざした利用者本位の介護の探求を佐久地域の関係機関と共に健康長寿と保健・医療・福祉・介護の各分野で連携を図り、医療・福祉の先進地域として、長寿かつ健康で生涯安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいくことが重要である。

本学は佐久市、佐久圏域介護保険事業者及び JA 長野厚生連を始めとする地域機関と連携して、高齢者と家族が安心して生活できる環境を整えるため、介護する人とされる人のどちらにも優しい介護の探求と、高度な知識と技術を持った介護職者を輩出する目的をもってさまざま事業を展開している。平成 28 年度は特に一般市民の方にも提供できる介護技術支援や生活支援技術の改善・向上につなげることを目的に本研究事業を行うこととした。

2. 事業の概要

1) 地域の課題

日本の高齢化はピークに向けて介護ニーズの需要がさらに増大する一方、依然とし介護人材は不足するとの見通しが示されている。本学を取り巻く地域においても介護人材不足は例外ではなく、認知症や医療と介護支援を併せ持つ要介護高齢者の増大が見込まれ、安定した介護人材の確保は喫緊の課題となっている。本学は介護人材養成校として、高い倫理と知識と技術を備えた地域福祉の担い手を輩出するという重要な役割を果たす責務がある。しかしながら、介護職に対する社会的評価や認知度の低さ、介護職を取り巻く労働環境や人材確保・育成・定着の現状は厳しく、介護需要の増加に十分に対応できていないのが現実である。保健・医療・福祉の先進地域にある本学は、養成校として地域の介護環境改善・開発の現状と、介護職者の先進的取り組みの現状を広く丁寧に発信していく必要がある。

平成 28 年度は継続事業として、こうした地域の喫緊の課題解決に向けた取り組みを行った。

2) 事業の内容

平成 26 年度、平成 27 年度に引き続き、JA 長野厚生連、ジェイエー長野会、世界最高健康都市を宣言する佐久市及び佐久商工会議所、並びに新たに佐久圏域介護保

険事業者を始めとする地域の医療・福祉関連機関と連携を図り、介護環境改善と高度な技術でやさしい介護の実践と情報発信地を目指して、介護環境改善研究事業を実施した。

平成 28 年度の事業目標は、前 2 年の参加者による評価と本学を始めとする主催者側の評価・改善を踏まえ、事業の目的をより多くの方に認知いただき、より多くの参画を求めて地域の福祉の拠点となるべく事業を行った。その中では平成 26 年度に県の補助事業経費で購入した移動電動リフトや 6 輪車椅子を利用した介護支援技術指導や、平成 27 年度に購入した「物忘れ相談プログラム」を利用した診断と相談を実施した。

以下に具体的な事業をあげる。

①介護環境改善研究会

第 5 回目となる研究会は、平成 28 年 8 月 28 日（日）「信州介護学研究会」と名称を冠して開催した。研究会のテーマは「やさしい介護」、「介護を見つめなおす」を掲げ、介護する人とされる人のどちらにも優しい介護の探求や希望を抱いた後継者の育成を目的に、講演、シンポジウム、介護職者の取り組みの報告・研究発表、介護技術と介護機器・用具の改善・開発の状況や紹介などを実施した。（表 1）

事業所の介護職者と人材を養成する本学の教員が中心となって、それぞれの理念や情報を共有し、介護環境や技術の改善・向上につなげることができた。また今回、将来介護・福祉の仕事を目指す高校生による、「自分たちができること、取り組んでいること」について座談会を行い、将来の夢と希望を語ってもらうことができた。

②認知症と健康長寿を考える講演会

本講演会は、平成 26 年度から一貫して「認知症の予防・ケア」をテーマに実施している。平成 28 年度は、表 2 のとおり一般市民、介護・福祉の専門職者及び介護

表 1. [第 5 回信州介護学研究会プログラム]

項目	内容	発表者
基調講演	「魅力ある地域づくりについて」	佐久大学長・堀内ふき
座談会	「自分たちにできること、取り組んでいること」	高校生 短期大学生 高校・短大教員
企画展示	介護機器・用具展示 施設紹介	佐久ものづくり研究会 福祉施設
施設発表	介護現場の環境・質の 向上	施設代表
シンポジウム	安心して暮らせる地域 を目指して	佐久学園理事長

表 2. 「認知症の予防・ケア」講演会

講演会	講師	演題
第 1 回 平成 28 年 11 月 12 日	岐阜医療科学大学教授 内野 聖子	認知症の人とのコミュニケーション ーグループ回想法を中心にー
第 2 回 平成 28 年 12 月 3 日	医療法人社団翠会和光病院院長 日本認知症ケア学会理事長 今井 幸充	認知症の人と家族に対する支援

表 3. 「本学教員による公開講座」

公開講座	講師	講座名	備考
第 1 回 平成 28 年 12 月 2 日	准教授 関口 昌利	人にやさしい・身体にやさし移乗・移動の介護	車椅子 電動移乗リフト
第 2 回 平成 28 年 12 月 9 日	准教授 関口 昌利	人にやさしい・身体にやさしい清潔の介護	同上
第 3 回 平成 29 年 1 月 6 日	教授 金高 茂昭	介護ストレスに向き合う	
第 4 回 平成 29 年 1 月 13 日	准教授 菊池 小百合	認知症の人とのコミュニケーション	
第 5 回 平成 29 年 2 月 24 日	教授 矢羽田 明美	物忘れ相談プログラムについて	物忘れプログラム

職を目指す学生・生徒を対象に、学外の見識者 2 人による高齢社会における住まい・医療・介護・生活支援に関する講演会を開催した。(表 2)

③介護福祉機器展視察：「国際福祉機器展」の視察

平成 27 年度から実施している事業で、一般市民や介護職者を公募し、本学の教員がガイド役となって、介護機器・用具の国際的な総合展示である国際福祉機器展を視察した。最新の機器・用具を通して介護・福祉環境の改善や取り組みの現状を見聞することで、自立生活や社会参加の促進、家庭や福祉施設で介護を支援する福祉機器の役割を考えることを目的としている。

今年度は、平成 28 年 10 月 14 日に東京国際展示場「東京ビッグサイト」で行われた福祉機器展に一般公募から 5 名、本学学生 19 名、教員 4 名の計 28 名が参加した。事前研修として 10 月 7 日に本学講師から、最新の福祉機器情報及び国際福祉機器展視察のポイントなどについて講義を実施した。

④介護・福祉に関する公開講座

介護職者の学び直しの機会として、また一般市民の方が介護・生活支援について学ぶ機会として、本学の教員による優しい介護の探求や介護を取り巻く環境・介護技術の改善状況などについて公開講座を開催した。(表 3)

講座では、本学教員による生活援助技術の指導・公開、物的資源として本学の所有する介護機器・用具の紹介、平成 26 年度及び平成 27 年度県の事業補助金で購入した機器を使つての実技指導などを実施した。

講座の内容は表 3 のとおりである。

3. 事業の成果

本事業は、行政及び医療・福祉関連機関が連携し、介護技術や介護環境の改善研究や情報機会を共有することで、本学が地域の介護福祉体制を強化する拠点となり得る。特に佐久市が提唱する世界最高健康都市構想や保健・医療・福祉の先進地域として、本学がこの地域の介護・福祉の拠点となり、介護福祉士の養成と福祉現場の介護職者の介護技術及び介護環境の改善・向上につながる責務を果たすことができる。

また、高齢者がどのように健康長寿に生きていくのか、認知症の予防・ケアや認知症の人との関わり方などは、その家族や介護職者及び地域にとって重要な課題であり、本学は継続的に地域の方への重要な情報拠点と認知されつつあると考える。

さらに、学生にとっては、この研究事業を通して介護の魅力と将来に希望を持ち、より高い意欲を持って介護職者を志すことができる。また、介護ニーズの増加と相反する介護人材不足の現状において、介護の仕事の新たな担い手を確保していくために、介護職の重要性と介護の仕事の理解と魅力を高めることができると考える。

次の 1) から 4) のとおり、参加者からのアンケートによりそれぞれの事業の効果を評価することができる。なお、それぞれのアンケート結果の詳細データは資料として後に添付する。

1) 介護環境改善研究会

参加者：221 人（前年比 24 人増）

前年を上回る参加者を得ることができたが、アンケート回収率は 50%にとどまった。アンケートによる全体事業に対する評価は 85%が有意義であったと回答。特に今回初めて高校生を迎えて行った座談会と施設発表では、それぞれ約 90%が有意義とする回答を得ることができた。

コメントでは、今回の特徴である地域の高校生を迎える座談会の実施について、本学学生の印象とともに、次世代を担う人が将来の福祉社会に対して明確な目標を持って向かう姿勢に期待感をもってもらえた。しかし、同時により多くの次世代の人が、この機会に参加できるようアピールしていくことが課題であるという意見もあった。

2) 認知症と健康長寿を考える講演会

「認知症の予防・ケア」講演会

1 回目の講演は、岐阜県医療科学大学保健科学部看護学科教授の内野聖子氏による講演を「認知症の人とコミュニケーション ―グループ回想法を中心にして―」と題して行った。非薬物療法としての回想法は、高齢者の過去の人生の歴史に焦点を当て、過去、現在、未来へと連なるライフヒストリーを傾聴することを通じて、その人の心を支えることを目的とした技法をいう。参加者からは、認知症の人との関わり方として、会話や語りかけの方法として、多くのヒントを得たという感想が多く寄せられた。

参加者は約 120 人で、101 人からアンケート回答が得られ、そのうちの 90%の方から参考になったという回答であった。

2 回目の講演は、埼玉県和光病院院長で日本認知症ケア学会理事長でもある、今井幸充氏による講演を「認知症の人と家族に対する支援」と題して行った。認知症の病態を知ることから認知症の人のケアについて、特に認知症の人を抱える家族を支援する内容を中心に、施設などとの「介護のシェア」が必要であることが主張された。参加者からは、認知症の人にかかわる家族の世話とプロのケアに頼ることで、余裕をもって認知症の人に接する

大切さがわかり、光が見えてきたという感想も得られた。

参加者は約 110 人で、91 人からアンケート回答得られ、100%全員から参考になったという回答であった。

3) 介護福祉機器展視察

参加者 28 人（前年 35 人）

平成 28 年 10 月 14 日に東京国際展示場・東京ビッグサイトで開催された。その前週 10 月 7 日に事前研修を行い、最新の福祉機器情報及び国際福祉機器展視察のポイントについて講義を受けた。この視察研修及び事前研修につて、参加者全員から満足であるという評価を得た。参加者のアンケートからは、開発者の最新の研究を見ることができ、視野が広がったとする感想を得ることができた。

4) 介護・福祉に関する公開講座

表 3 のとおり、本学教員による優しい介護技術をはじめとする実技講座と介護に携わる際に必要な知識としての講義を、全 5 回の講座を行った。参加延べ人数は 102 人であった。参加者からは、わかりやすい実技指導で、職場環境を整える心を感じてもらえた。また、いずれももっと時間があればという感想が多く、次年度の開催に改善・検討していくことが必要である。それぞれの講座に対する期待度については、アンケート結果からほぼ 90%以上が満たされたとする回答であった。

Ⅲ. まとめ

増大する日本の高齢化に対応するために欠かせない介護人材確保の問題は、今でもその解決の糸口が明確になっていない。しかし本学は介護人材を育成する責務と介護・福祉の環境を改善し、整えていく責務を担っていかねばならない。待遇や体制は国や行政の問題として、本学は地域の介護・福祉関係機関と連携して「住み慣れた地域で安心して暮らせる」ことを願いとして、労働環境改善や介護人材のキャリアアップを図ることを目標に、本事業を継続していくことが必要であると考え。本学は福祉のプロを育成すべく、高い専門性と常にスキルアップが図れる地域の拠点として、引き続き様々な取り組みを行っていきたい。

2016/8/31集計

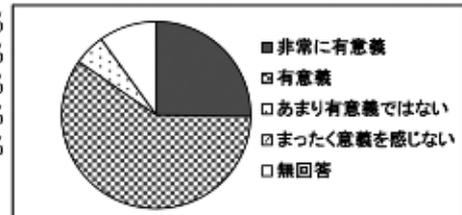
第5回信州介護学研究会 (2016年8月28日実施)

	回答数	構成比	回答者数 111名
<所属>			
1. JA長野厚生連	30	27.0%	
2. ジェイエー長野会	14	12.6%	
3. JA各事業所	6	5.4%	
4. 信州短期大学部 学生	15	13.5%	
5. 佐久大学 学生	0	0.0%	
6. 信州短期大学部 卒業生	0	0.0%	
7. 佐久学園 教職員	1	0.9%	
8. 高校生	2	1.8%	
9. 高校教員	0	0.0%	
10. 行政関係	2	1.8%	
11. 介護保険事業者	20	18.0%	
12. 一般	15	13.5%	
13. 報道関係	0	0.0%	
無回答	6	5.4%	
計	111		

問1 研究会の感想について

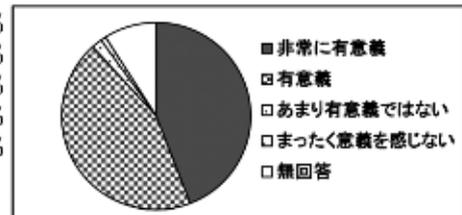
① 「基調講演」

1 非常に有意義	28	25.2%
2 有意義	66	59.5%
3 あまり有意義ではない	6	5.4%
4 まったく意義を感じない	0	0.0%
無回答	11	9.9%
計	111	



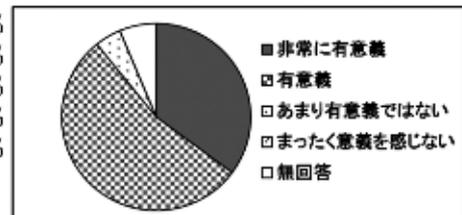
② 「座談会」

1 非常に有意義	49	44.1%
2 有意義	49	44.1%
3 あまり有意義ではない	2	1.8%
4 まったく意義を感じない	1	0.9%
無回答	10	9.0%
計	111	



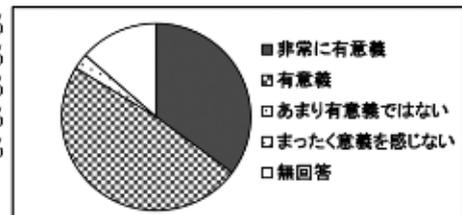
③ 「施設発表」

1 非常に有意義	39	35.1%
2 有意義	60	54.1%
3 あまり有意義ではない	5	4.5%
4 まったく意義を感じない	0	0.0%
無回答	7	6.3%
計	111	



④ 「シンポジウム」

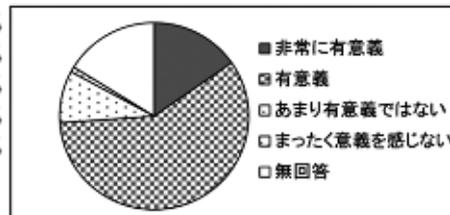
1 非常に有意義	39	35.1%
2 有意義	54	48.6%
3 あまり有意義ではない	3	2.7%
4 まったく意義を感じない	0	0.0%
無回答	15	13.5%
計	111	



2016/8/31集計

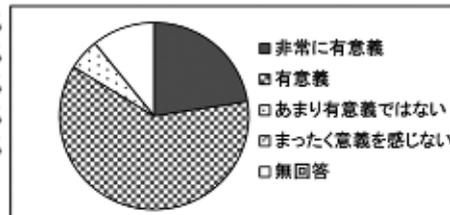
⑤ 「介護機器用具展示会」

1	非常に有意義	17	15.3%
2	有意義	65	58.6%
3	あまり有意義ではない	10	9.0%
4	まったく意義を感じない	1	0.9%
	無回答	18	16.2%
	計	111	



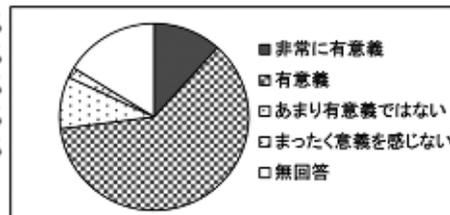
⑥ 「施設紹介・ポスター展示」

1	非常に有意義	25	22.5%
2	有意義	68	61.3%
3	あまり有意義ではない	6	5.4%
4	まったく意義を感じない	0	0.0%
	無回答	12	10.8%
	計	111	



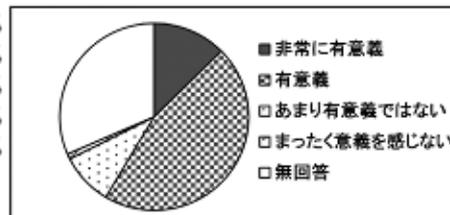
⑦ 「書籍販売」

1	非常に有意義	13	11.7%
2	有意義	68	61.3%
3	あまり有意義ではない	10	9.0%
4	まったく意義を感じない	2	1.8%
	無回答	18	16.2%
	計	111	



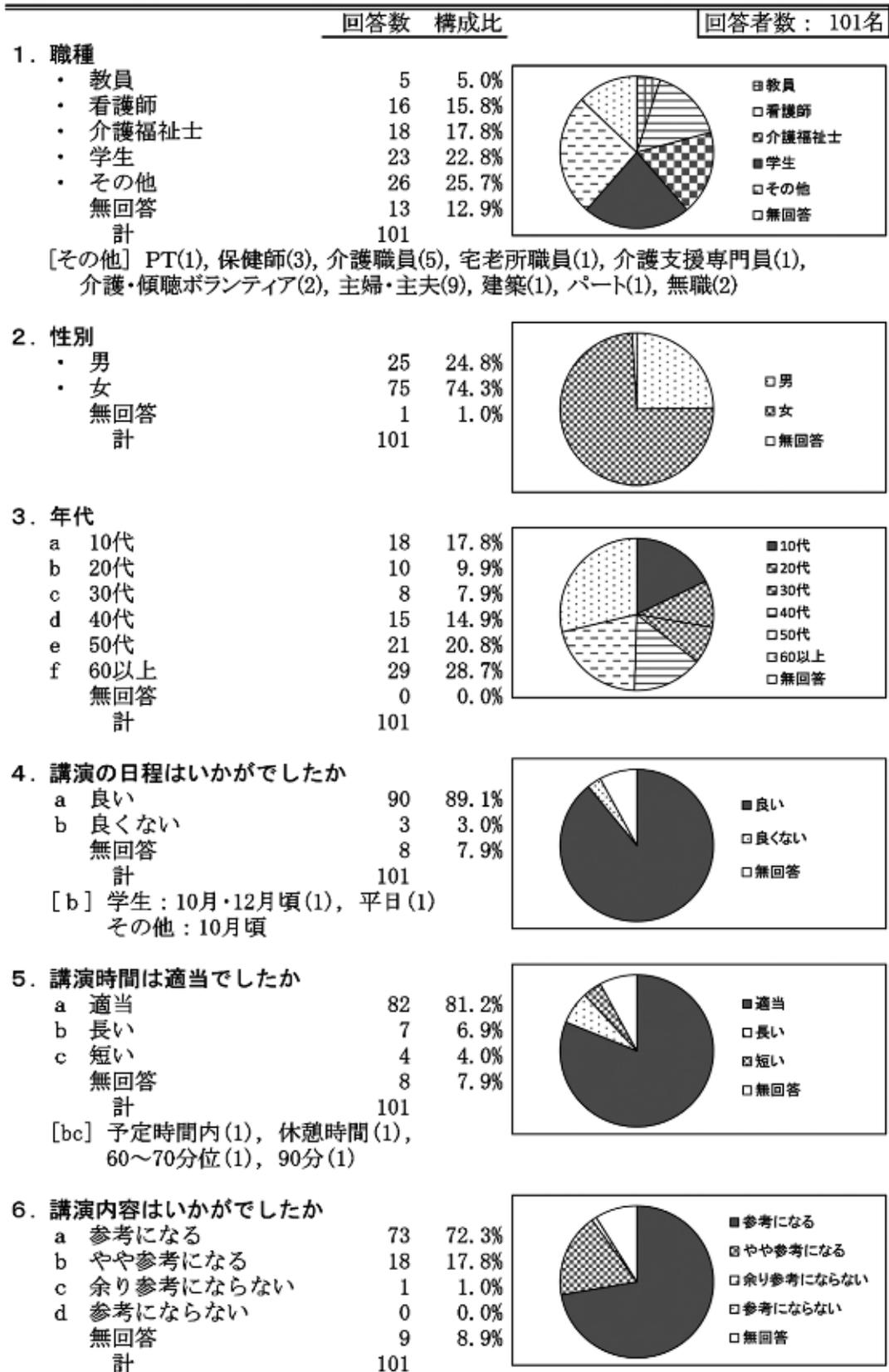
⑧ 「ミニオープンキャンパス」

1	非常に有意義	14	12.6%
2	有意義	51	45.9%
3	あまり有意義ではない	10	9.0%
4	まったく意義を感じない	1	0.9%
	無回答	35	31.5%
	計	111	



2016/11/15集計

「認知症の予防・ケア」公開講演会 アンケート集計（第1回目 2016/11/12実施）



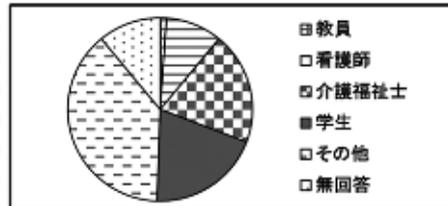
2016/12/07集計

「認知症の予防・ケア」公開講演会 アンケート集計 (第 2 回目 2016/12/03実施)

	回答数	構成比	回答者数: 91名
--	-----	-----	-----------

1. 職種

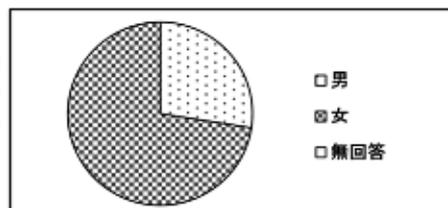
・ 教員	1	1.1%
・ 看護師	9	9.9%
・ 介護福祉士	18	19.8%
・ 学生	18	19.8%
・ その他	35	38.5%
無回答	10	11.0%
計	91	



[その他] 社会福祉法人役員, 特養施設長, 介護関係社員(2), 歯科医師, 保健師, 臨床検査技師, ケアマネ, 介護職員(4), 宅老所職員, 聴講ボランティア, 会社員(2), 公務員(1), 主婦(10), 農業(3), 建築, 無職(4)

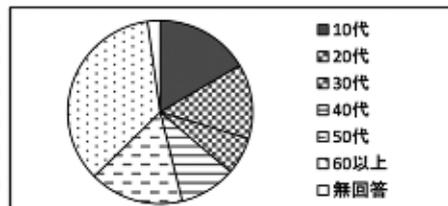
2. 性別

・ 男	25	27.5%
・ 女	66	72.5%
無回答	0	0.0%
計	91	



3. 年代

a 10代	15	16.5%
b 20代	12	13.2%
c 30代	6	6.6%
d 40代	9	9.9%
e 50代	15	16.5%
f 60以上	32	35.2%
無回答	2	2.2%
計	91	



4. 講演の日程はいかがでしたか

a 良い	85	93.4%
b 良くない	5	5.5%
無回答	1	1.1%
計	91	



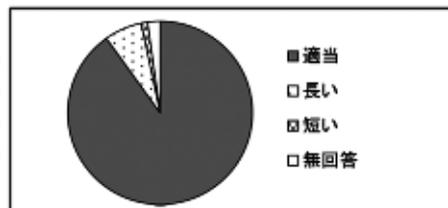
[b] 看護師: 13:30~

学生: 1月頃, 平日,
9時~10時開始がよい

ケアマネ: 時間はよいが10月頃がいい(冬場は雪が心配)

5. 講演時間は適当でしたか

a 適当	82	90.1%
b 長い	6	6.6%
c 短い	1	1.1%
無回答	2	2.2%
計	91	



[bc] 90分(3), もっと沢山聞きたい

2016/12/07集計

6. 講演内容はいかがでしたか

a 参考になる	78	85.7%
b やや参考になる	13	14.3%
c 余り参考にならない	0	0.0%
d 参考にならない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	91	



・資料の配布が有りがたい。

国際福祉機器展視察(10/14実施)参加アンケート集計 (2016年10月調査)

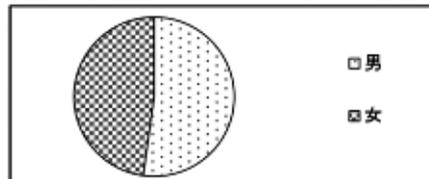
回答数 構成比

回答者数: 23名

1 性別・年代・ご職業(業種)を教えてください。

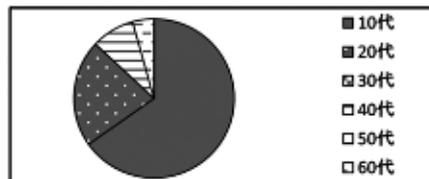
(1) 性別

a 男	12	52.2%
b 女	11	47.8%
計	23	



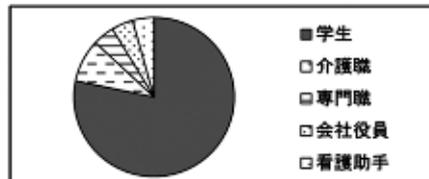
(2) 年代

a 10代	15	65.2%
b 20代	5	21.7%
c 30代	0	0.0%
d 40代	2	8.7%
e 50代	1	4.3%
f 60代	0	0.0%
計	23	



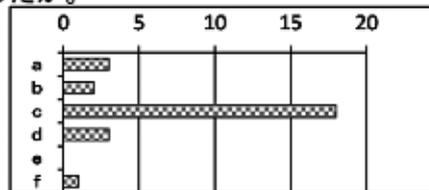
(3) 職業

a 学生	18	78.3%
b 介護職	2	8.7%
c 専門職	1	4.3%
d 会社役員	1	4.3%
e 看護助手	1	4.3%
計	23	



2 この「国際福祉機器展視察」を何で知りましたか。

a 本学のチラシ・ポスター	3	13.0%
b 本学のホームページ	2	8.7%
c 本学関係者の紹介	18	78.3%
d 職場・友人の紹介	3	13.0%
e 新聞・雑誌等の記事	0	0.0%
f その他(授業)	1	4.3%
計	27	



(複数回答あり)

3 参加目的は何ですか。差支えなければお聞かせください。

[学生]

- ・ 福祉器具を知ること
- ・ 最新の福祉機器をみるため。
- ・ 最先端の福祉機器を学ぶため
- ・ 様々な福祉機器を見てみたかったから。
- ・ 外国の福祉機器と国内の福祉機器の状況を知りたかったから
- ・ 1年に1回しか開催されないのので、参考にさせていただきたく参加しました。
- ・ 福祉用具など、どこの会社がどのような福祉機器を開発しているのかなど見学
- ・ 勉強(2)
- ・ 学習のため
- ・ 知識増加のため

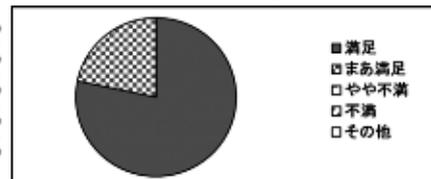
[一般]

- ・ 福祉用具の最新機器の情報収集
- ・ 知り合いのすすめと、自分の興味があつて
- ・ 知人企業のブース訪問、新しい技術や製品・商品の視察
- ・ 情報収集
- ・ 浴槽の見学

2016/11/16集計

4 国際福祉機器展の内容はいかがでしたか。

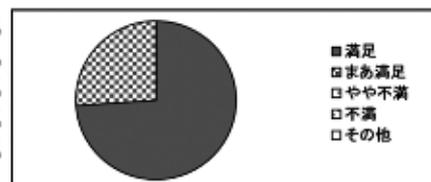
a	満足	18	78.3%
b	まあ満足	5	21.7%
c	やや不満	0	0.0%
d	不満	0	0.0%
e	その他	0	0.0%
	計	23	



- ・よかった[学生]
- ・各国の福祉機器の状況が見られて良かった[学生]
- ・広い会場にびっしりと展示されていて大満足でした[学生]
- ・最新のもの、開発者の方達の日々の研究がうかがえて良かったです[介護職]

5 この視察の企画についてはいかがでしたか。

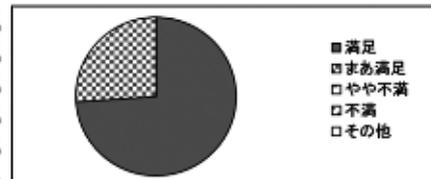
a	満足	17	73.9%
b	まあ満足	6	26.1%
c	やや不満	0	0.0%
d	不満	0	0.0%
e	その他	0	0.0%
	計	23	



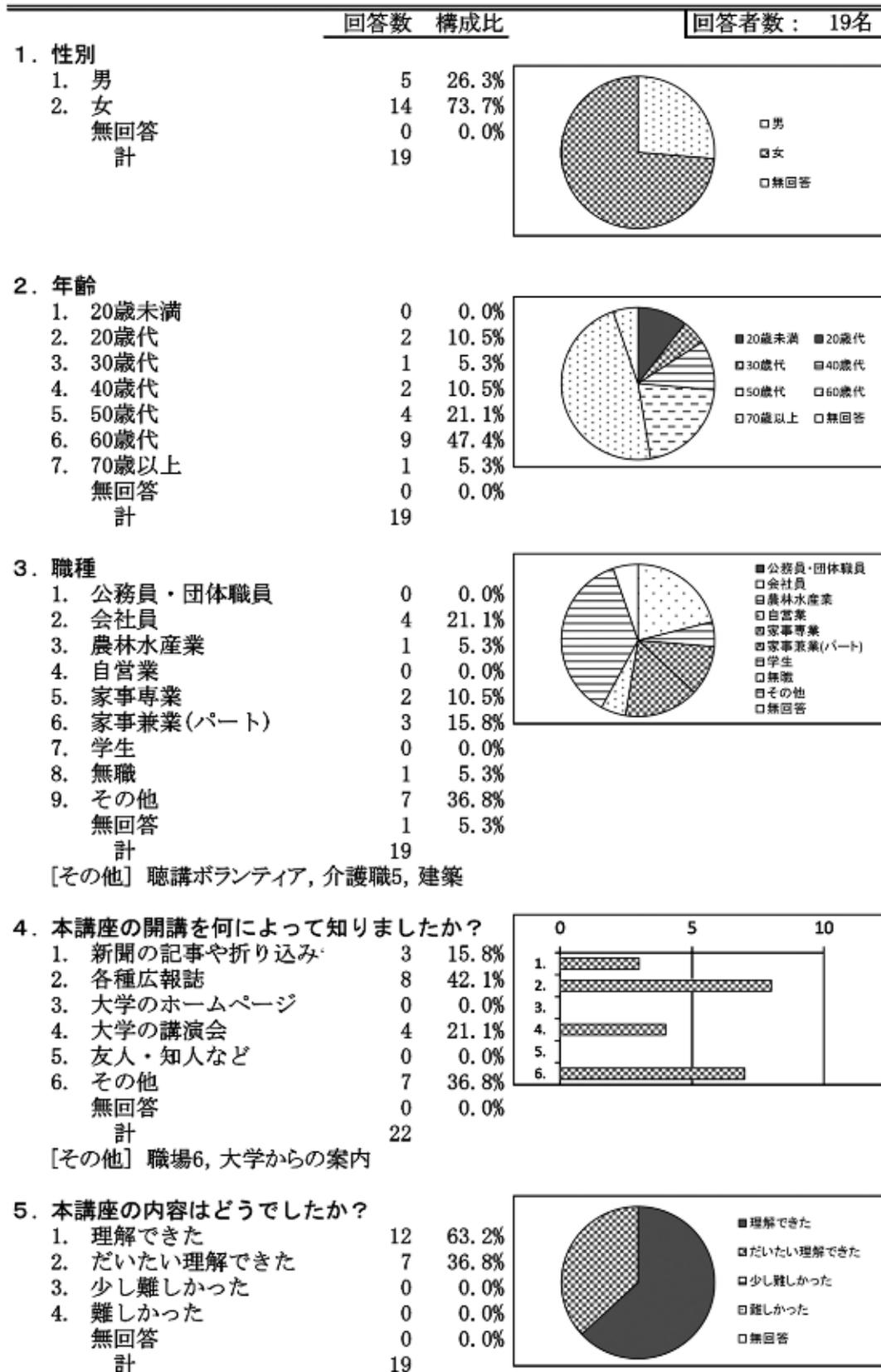
- ・今後の参考にさせてもらった[学生]
- ・様々な企業の取り組みが分かりやすく、興味がわいた[学生]
- ・また来年も企画してください[専門職]

6 事前研修についてはいかがでしたか。

a	満足	8	34.8%
b	まあ満足	8	34.8%
c	やや不満	0	0.0%
d	不満	0	0.0%
e	その他	0	0.0%
	無回答	7	30.4%
	計	23	



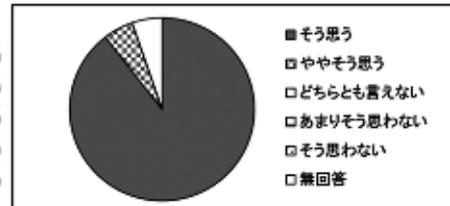
介護公開講座 アンケート集計 (第 1 回目 2016/12/02実施)



2016/12/2集計

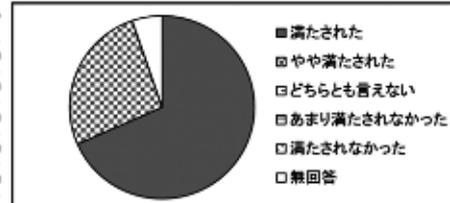
6. 講師はわかりやすく説明していましたか？

1. そう思う	17	89.5%
2. ややそう思う	1	5.3%
3. どちらとも言えない	0	0.0%
4. あまりそう思わない	0	0.0%
5. そう思わない	0	0.0%
無回答	1	5.3%
計	19	

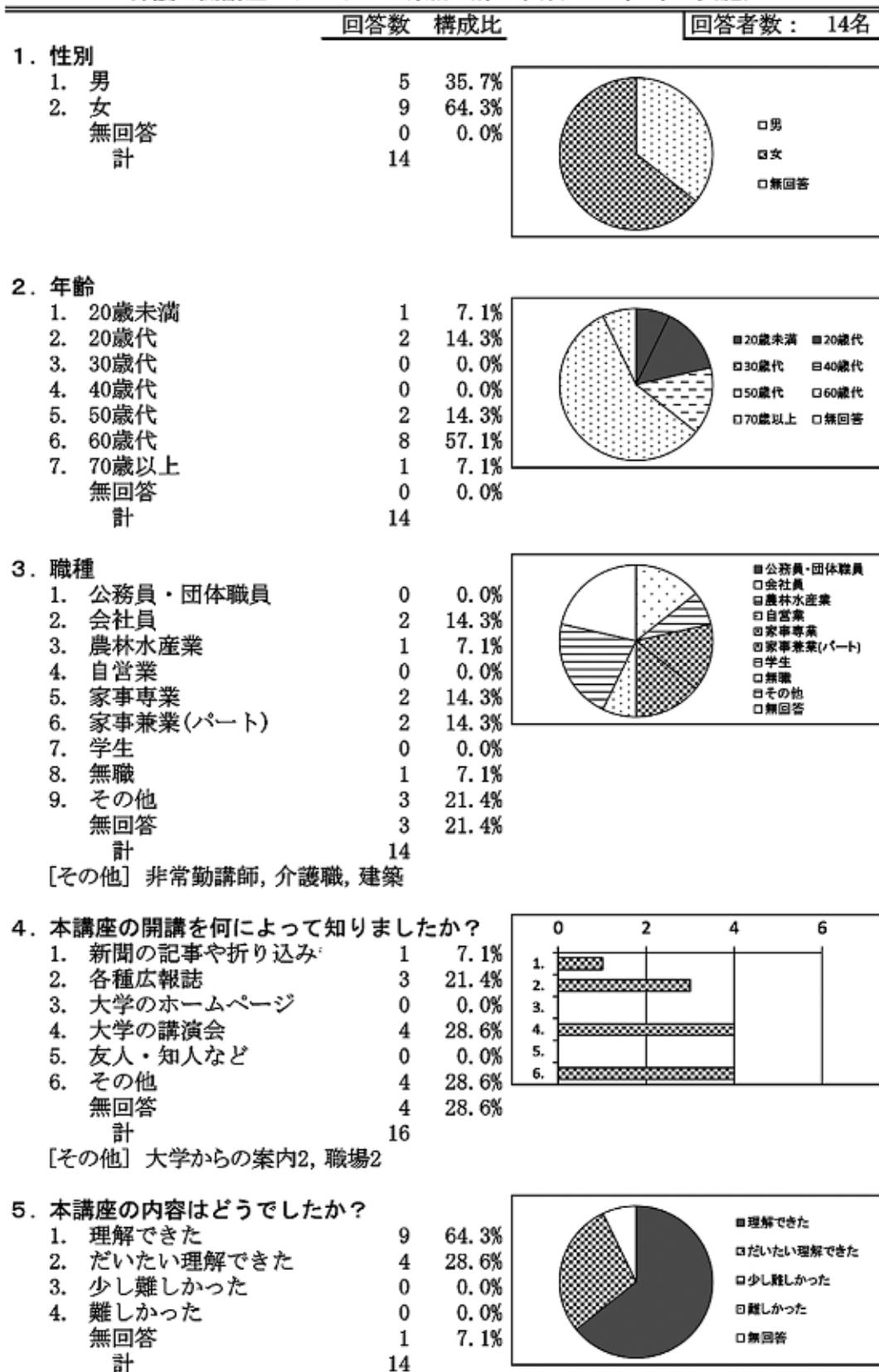


7. 本講座に対するご期待は満たされましたか？

1. 満たされた	13	68.4%
2. やや満たされた	5	26.3%
3. どちらとも言えない	0	0.0%
4. あまり満たされなかった	0	0.0%
5. 満たされなかった	0	0.0%
無回答	1	5.3%
計	19	



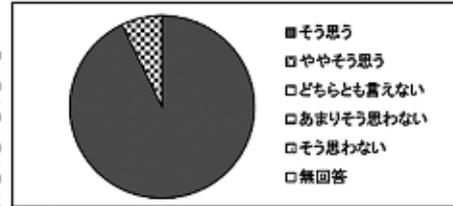
介護公開講座 アンケート集計 (第 2 回目 2016/12/09実施)



2016/12/12集計

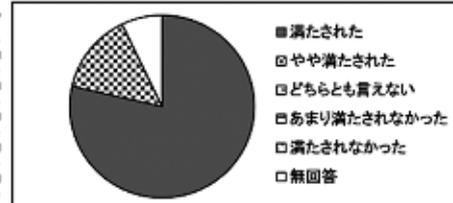
6. 講師はわかりやすく説明していましたか？

1. そう思う	13	92.9%
2. ややそう思う	1	7.1%
3. どちらとも言えない	0	0.0%
4. あまりそう思わない	0	0.0%
5. そう思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	14	



7. 本講座に対するご期待は満たされましたか？

1. 満たされた	11	78.6%
2. やや満たされた	2	14.3%
3. どちらとも言えない	0	0.0%
4. あまり満たされなかった	0	0.0%
5. 満たされなかった	0	0.0%
無回答	1	7.1%
計	14	



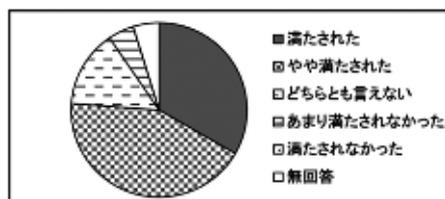
介護公開講座 アンケート集計 (第 3 回目 2017/01/06実施)

		回答数	構成比	回答者数: 21名
1. 性別				
1. 男		8	38.1%	
2. 女		13	61.9%	
無回答		0	0.0%	
計		21		
2. 年齢				
1. 20歳未満		1	4.8%	
2. 20歳代		2	9.5%	
3. 30歳代		2	9.5%	
4. 40歳代		2	9.5%	
5. 50歳代		5	23.8%	
6. 60歳代		9	42.9%	
7. 70歳以上		0	0.0%	
計		21		
3. 職種				
1. 公務員・団体職員		1	4.8%	
2. 会社員		8	38.1%	
3. 農林水産業		1	4.8%	
4. 自営業		0	0.0%	
5. 家事専業		1	4.8%	
6. 家事兼業(パート)		1	4.8%	
7. 学生		0	0.0%	
8. 無職		1	4.8%	
9. その他		6	28.6%	
無回答		2	9.5%	
計		21		
(居宅ケアマネ, 介護職4, 建築)				
4. 本講座の開講を何によって知りましたか?				
1. 新聞の記事や折り込み		3	14.3%	
2. 各種広報誌		5	23.8%	
3. 大学のホームページ		2	9.5%	
4. 大学の講演会		6	28.6%	
5. 友人・知人など		1	4.8%	
6. その他 (職場)		4	19.0%	
無回答		3	14.3%	
計		24		
5. 本講座の内容はどうでしたか?				
1. 理解できた		13	61.9%	
2. だいたい理解できた		6	28.6%	
3. 少し難しかった		1	4.8%	
4. 難しかった		0	0.0%	
無回答		1	4.8%	
計		21		
6. 講師はわかりやすく説明していましたか?				
1. そう思う		12	57.1%	
2. ややそう思う		6	28.6%	
3. どちらとも言えない		3	14.3%	
4. あまりそう思わない		0	0.0%	
5. そう思わない		0	0.0%	
計		21		

2017/1/6集計

7. 本講座に対するご期待は満たされましたか？

1. 満たされた	7	33.3%
2. やや満たされた	9	42.9%
3. どちらとも言えない	3	14.3%
4. あまり満たされなかった	1	4.8%
5. 満たされなかった	0	0.0%
無回答	1	4.8%
計	21	



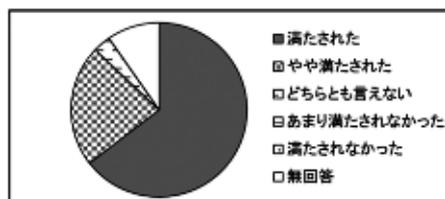
介護公開講座 アンケート集計 (第 4 回目 2017/01/13実施)

		回答数	構成比	回答者数 : 31名
1. 性別				
1.	男	8	25.8%	
2.	女	20	64.5%	
	無回答	2	6.5%	
	計	30		
2. 年齢				
1.	20歳未満	1	3.2%	
2.	20歳代	3	9.7%	
3.	30歳代	1	3.2%	
4.	40歳代	6	19.4%	
5.	50歳代	7	22.6%	
6.	60歳代	12	38.7%	
7.	70歳以上	1	3.2%	
	計	31		
3. 職種				
1.	公務員・団体職員	0	0.0%	
2.	会社員	7	22.6%	
3.	農林水産業	2	6.5%	
4.	自営業	0	0.0%	
5.	家事専業	2	6.5%	
6.	家事兼業(パート)	7	22.6%	
7.	学生	0	0.0%	
8.	無職	1	3.2%	
9.	その他	9	29.0%	
	無回答	3	9.7%	(介護職7, 医療関係, 建築)
	計	31		
4. 本講座の開講を何によって知りましたか?				
1.	新聞の記事や折り込みチラシ	3	9.7%	
2.	各種広報誌	9	29.0%	
3.	大学のホームページ	2	6.5%	
4.	大学の講演会	10	32.3%	
5.	友人・知人など	3	9.7%	
6.	その他 (大学からの案内4, 職番3)	7	22.6%	
	無回答	2	6.5%	
	計	36		
5. 本講座の内容はどうでしたか?				
1.	理解できた	16	51.6%	
2.	だいたい理解できた	13	41.9%	
3.	少し難しかった	0	0.0%	
4.	難しかった	0	0.0%	
	無回答	2	6.5%	
	計	31		
6. 講師はわかりやすく説明していましたか?				
1.	そう思う	24	77.4%	
2.	ややそう思う	5	16.1%	
3.	どちらとも言えない	0	0.0%	
4.	あまりそう思わない	0	0.0%	
5.	そう思わない	0	0.0%	
	無回答	2	6.5%	
	計	31		

2017/1/16集計

7. 本講座に対するご期待は満たされましたか？

1. 満たされた	20	64.5%
2. やや満たされた	7	22.6%
3. どちらとも言えない	1	3.2%
4. あまり満たされなかった	0	0.0%
5. 満たされなかった	0	0.0%
無回答	3	9.7%
計	31	



介護公開講座 アンケート集計 (第 5 回目 2017/02/24実施)

		回答数	構成比	回答者数: 8名
1. 性別				
1. 男		3	37.5%	<ul style="list-style-type: none"> □ 男 □ 女 □ 無回答
2. 女		5	62.5%	
無回答		0	0.0%	
計		8		
2. 年齢				
1. 20歳未満		0	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 20歳未満 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳以上
2. 20歳代		1	12.5%	
3. 30歳代		1	12.5%	
4. 40歳代		1	12.5%	
5. 50歳代		1	12.5%	
6. 60歳代		4	50.0%	
7. 70歳以上		0	0.0%	
計		8		
3. 職種				
1. 公務員・団体職員		1	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公務員・団体職員 □ 会社員 □ 農林水産業 □ 自営業 □ 家事専業 □ 家事兼業(パート) □ 学生 □ 無職 □ その他 □ 無回答
2. 会社員		0	0.0%	
3. 農林水産業		0	0.0%	
4. 自営業		0	0.0%	
5. 家事専業		1	12.5%	
6. 家事兼業(パート)		2	25.0%	
7. 学生		0	0.0%	
8. 無職		1	12.5%	
9. その他		2	25.0%	
無回答		1	12.5%	(介護職2)
計		8		
4. 本講座の開講を何によって知りましたか?				
1. 新聞の記事や折り込みチラシ		2	25.0%	
2. 各種広報誌		3	37.5%	
3. 大学のホームページ		2	25.0%	
4. 大学の講演会		2	25.0%	
5. 友人・知人など		0	0.0%	
6. その他(職場1)		1	12.5%	
無回答		1	12.5%	
計		11		
5. 本講座の内容はどうでしたか?				
1. 理解できた		6	75.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理解できた ■ だいたい理解できた ■ 少し難しかった ■ 難しかった □ 無回答
2. だいたい理解できた		1	12.5%	
3. 少し難しかった		0	0.0%	
4. 難しかった		0	0.0%	
無回答		1	12.5%	
計		8		
6. 講師はわかりやすく説明していましたか?				
1. そう思う		4	50.0%	<ul style="list-style-type: none"> ■ そう思う ■ ややそう思う □ どちらとも言えない □ あまりそう思わない □ そう思わない □ 無回答
2. ややそう思う		3	37.5%	
3. どちらとも言えない		0	0.0%	
4. あまりそう思わない		0	0.0%	
5. そう思わない		0	0.0%	
無回答		1	12.5%	
計		8		

2017/2/24集計

7. 本講座に対するご期待は満たされましたか？

1. 満たされた	3	37.5%
2. やや満たされた	4	50.0%
3. どちらとも言えない	0	0.0%
4. あまり満たされなかった	0	0.0%
5. 満たされなかった	0	0.0%
無回答	1	12.5%
計	8	

